

① 作品  
② 外す  
③ 友人

④ 中古  
⑤ 野生

2  
1 A 二  
B 八  
C 十

2 自由自在

3 I 悟りの境地

3 II ウ  
・  
エ  
4 イ  
5 こ  
(※3 II 順不同)

3  
1 A エ  
B イ  
2 千倉

3 ② エ  
③ ウ  
4 ア

5 イ  
6 ゆめ

7 おなかをすか

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
＜計＞100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。② 「外」はほかに「そと」「ほか」という訓読みがある。③ 「人」をうっかり「入」と書いてしまわないように気をつけよう。④ 「中古」は「やや古くなったもの」という意味。「ちゅうぶる」とも言う。⑤ 「野性」と書いてしまわないように気をつけたい。

2

1 漢数字をふくむ四字熟語はよく出題されるので積極的に覚えていこう。

A 「一石二鳥」はひとつの行いから同時に二つの利益を得ること。「一挙両得」も同じ意味である。

B 「四苦八苦」は非常な苦しみ、または、さんざん苦労すること。

C 「十人十色」は好みや考えなどがそれぞれちがうということ。

2 直後の「自由さんと自在さんが合体して生まれたの」からわかる。「漢字四字」という指定も大きなヒントになる。

3 I 直前の一文の中に「……仏教ではもともと、『悟りの境地』の意味」とある。

II 「自由」について述べているところで、「自由」の意味をマイナスにとらえていることをさがす。本文最後の一文に「わたし、けっして、わがままに自分勝手に振る舞ったりは、しないわよ」とあるのでウ「わがまま」とエ「自分勝手」が答えになる。ア「人間の心」やイ「自分の心」は「よくない意味」とはかぎらない。

4 傍線部をふくむ一文を見ると、「自在さんは……もとはほとけさまたちにそなわっている能力のことだわ」とある。

5 「あの世」は死後の世界のこと、「この世」は生きているときの世界のこと。「あの世」と「この世」はセットで使われることが多い。

3

1 A 「チツくん」が「人見知りをしたり、はずかしがったり、人をこわがったりすること」がない理由が（A）の前に書かれていることから、エ「ですから」がはいる。

B 食べものがない戦争中の話だったので、（B）のあとでは「チツくん」が毎日食べものをわけてもらっていたと書かれているので、イ「それなのに」がはいる。

2 直後で「チツくん」にあまえた声でよびかけられてふり向いていることから「チクラ・シヨイ」だとわかる。ただし字数が合わないので、字数を手がかりにさがしていくと、本文2枚目のまん中あたりに「千倉慎一少尉」とある。

3 ② 自分の部屋をたずねてきてくれた「チツくん」にかけることばなので、エ「やあ」がふさわしい。

③ 直後で「えんりよしないでお食べ」と「チツくん」にすすめていることから、ウ「さあ」がふさわしい。ただ「えんりよしない」という意味ではなく、より強調する意味になる。

5 ここでの「それは」は指示語ではなく、感動をこめてあとにつづくことからをほめるときに用いることばである。「それは美しいお姫さまでした」などとくり返して用いることもある。

6 「ゆめのまたゆめ」はけっして見る事がかなわないようなこと。「ゆめまたゆめ」ということもある。

7 「ひもじい思いをがまんしていた」のは同じ段落のはじめにある「おなかをすかした子どもたち」である。